

ハローキャリアワーク通信



株式会社友成工芸から依頼のあった「コロナ禍で使用した『アクリル板』をアップサイクルして、素敵な製品を作りませんか？」のハローキャリアワークの3回目、最終回が12月14日（土曜日）に友成工芸の工房で行われました。今回は、前回子どもたちが考えた製品の企画や設計図を基に、デザイナーの関氏が商品としてふさわしくなるように修正したり、友成工芸の友成会長や大知里氏の技術力を借りたりして、試作品の完成を目指しました。



初めに、社長の友成富美さんから講師の紹介がありました。その後、今日の流れをデザイナーの関氏が行い、教育委員会の担当者から諸注意をしました。そして、今日は、一人一人の試作品が違うので、グループ分けを行い、担当者として関氏、友成会長、大知里氏にお願いすることになりました。子どもたちの試作品は、キーホルダー、パズル、オブジェ、スマホスタンドの4種類になり、キーホルダーを関氏、パズルとオブジェを友成会長、スマホスタンドを大知里氏が受けもって試作品作りに入りました。



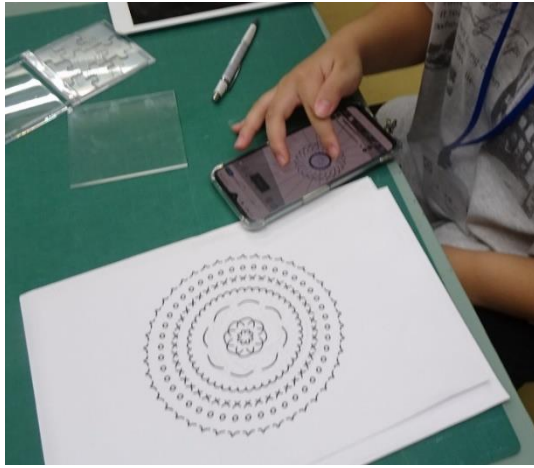
パズルとオブジェは、図案をパソコンに読み込みます。パズルは、レーザー彫刻で図案をアクリル板に写し書き、その後でパズルのピースの形にカットしました。出来上がったものを見て、子どもから「もっと深く掘り込みを入れて絵を仕上げたい」との要望に応じて、再度、アクリル板に図案を書き入れ、パズルにしました。それを受け取って、色付けを行い仕上げ、完成を目指しました。円の模様を作り上げた子どもは、その模様の仕上げに、スマホにあるアプリを使って作成しました。オブジェの子は、切り抜かれたアクリル板を組み立てましたが、1つのケースに収まるサイズのアクリル板にするため、切り抜く位置を変更し、そのサイズに収まるように考え、再度、その図案をパソコンに取り込ませていました。

パズルとオブジェは、図案をパソコンに読み込みます。パズルは、レーザー彫刻で図案をアクリル板に写し書き、その後でパズルのピースの形にカットしました。出来上



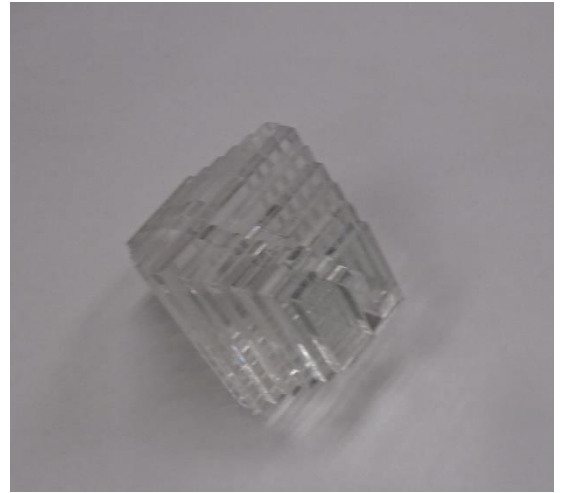
がったものを見て、子どもから「もっと深く掘り込みを入れて絵を仕上げたい」との要望に応じて、再度、アクリル板に図案を書き入れ、パズルにしました。それを受け取って、色付けを行い仕上げ、完成を目指しました。円の模様を作り上げた子どもは、その模様の仕上げに、スマホにあるアプリを使って作成しました。オブジェの子は、切り抜かれたアクリル板を組み立てましたが、1つのケースに収まるサイズのアクリル板にするため、切り抜く位置を変更し、そのサイズに収まるように考え、再度、その図案をパソコンに取り込ませていました。

キーホルダーの子どもは、図案をパソコンに読み込ませその確認をしていると、関氏から、「円形より楕円形の形にした方がいい」というアドバイスをもらい、土台の形を楕円形にして、金具を取り付ける穴の位置も入れて、レーザー彫刻でカットに入りました。また、一番難しいと思われたスマホスタンドの作成



ですが、子どもと大知里氏とのやり取りで作成を進めたのですが、実際にスマホを縦方向に載せてみると、倒れてしまいました。二人はその原因を追究して、3mmの棒に亚克力板を削り、支えに付けました。それでも、支えの板が浮いてしまうので、「切り込みと、それを受ける3mmの棒の亚克力板を貼り付け、試してみました。それでも浮いてしまうので、二人は、5mmにしてみよう

ということで、切込みを5mmにして、受ける棒も5mm幅より少し狭い棒にして、取り付けました。接着剤の乾きを待って、まず、スマホを横に置いてみました。これは、スタンドが立ちま



した。スマホを縦に置いて、立たな

ければまたやり直しです。二人は祈るような思いでスマホを置いてみました。スタンドは浮くことなく、スマホを載せることができました。その時の二人の顔の様子は、デザイナーと仕事を成し遂げた職人さんの顔でした。試作品作りに集中して、時の経つのを忘れるほど取り組んでいましたが、作業時間が残り少なくなり、最後の仕上げにとの声がかかりました。それでも集中している子どもたちの手は止まりません。キーホルダーの子は、細かい図案で、自分の作った作品への思いから、張り付けたマスキングテープを丁寧に取りたいと

の思いが強く表れていました。それでも時間になり、それぞれ作品のことを発表しました。最後に、今回関わった方から、それぞれの立場から子どもたちに言葉が寄せられました。その内容は「モノづくり」を行った人が感じる思いや、これから大人になっていく際に、忘れないでほしいという願いが込められていました。そして、「必要でなくなったものを『アップサイクル』して、価値あるものに作り替える」ことの大切さを理解できた体験となったことと思います。今回出来上がったそれぞれの試作品をもとに、友成工芸で「商品」となるものが生まれると思います。以下その様子です。





